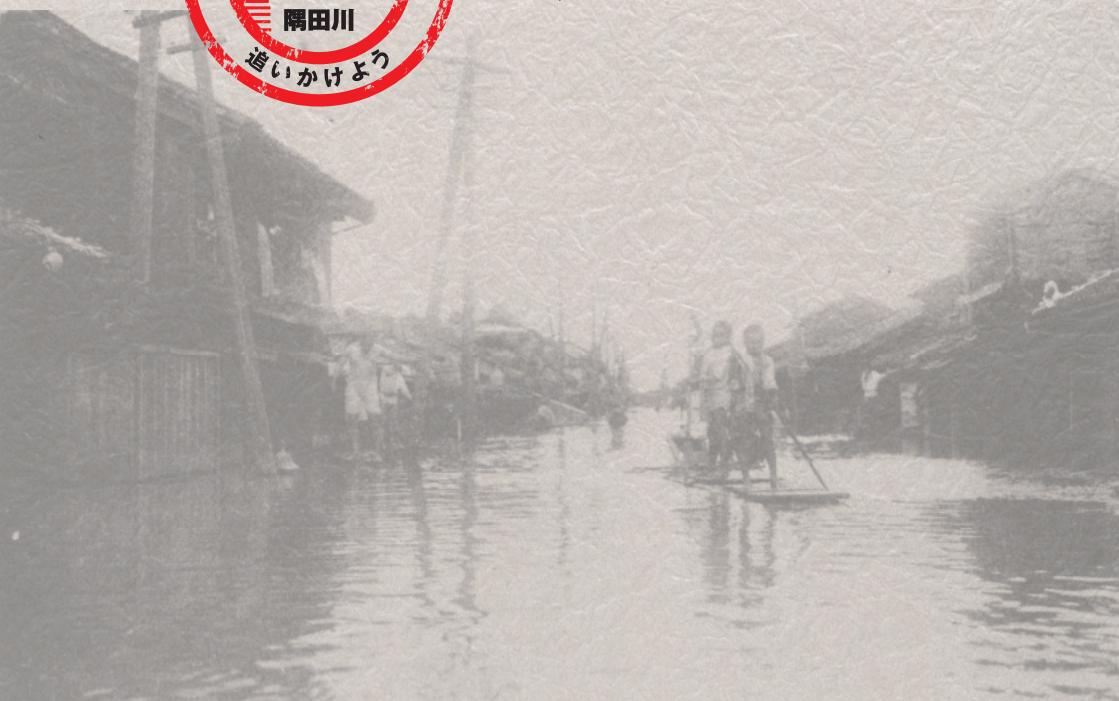




明治43年の大洪水

濁浪だくろうの海と化す



そして、今の荒川も。

新聞報道で知る大洪水

8月6日から豪雨、綾瀬川決壊

8月6日から降り続く雨により、隅田川に流れ込む綾瀬川の上流、嘉兵衛新田（西加平）の右岸堤防（海に向かって右側の堤防）が決壊しました。このとき、決壊を知らせる太鼓が白髭や堀切あたりにまで聞こえてきたそうです。

8月11日午後3時、綾瀬橋下、八間にわたって決壊

荒川（放水路）と隅田川にはさまれた東武伊勢崎線・堀切駅から歩くとすぐ、隅田川がほぼ南へ90度曲がる鐘ヶ淵。ここは旧綾瀬川の隅田川への合流点でもありました。今は水門に遮られ、旧綾瀬川が短い距離を残しています。

8月11日午後3時、ここにある綾瀬橋下の左岸堤防（海に向かって左側の堤防）が八間（約14.56m）にわたって決壊しました。そのときの様子を当時の新聞は「怒号して」と書いています。ものすごい音とともに渦巻いた濁流は吾嬬村（東京府南葛飾郡）一円に氾濫しました。

8月11日 川口越水

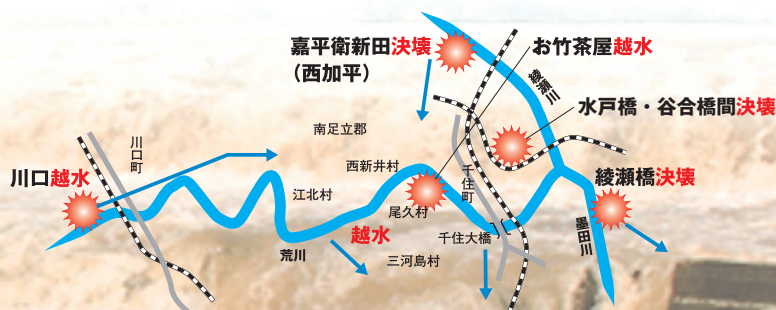
新聞は、11日午後4時、北足立郡川口町付近で濁水が「堤防を乗り越し^た忽ち数里の稲田を呑んで一面の泥海と変じたり」と伝えています。濁流が堤防を乗り越えて、あっという間に数km²にわたって田を泥海に変えたというのです。江北、西新井を経て北千住のほうへ流れていった濁流の速さがうかがえます。

8月12日 荒川大あばれ

荒川の越水、綾瀬川が決壊などにより、北千住（南足立郡）、南千住（北豊島郡）は「見渡す限り海」となり、駅も浸水して鉄道も止まりました。「荒川大あばれ」という新聞の見出し通り、人は誰も手を出せず、見ているしかないという状態でした。

荒川堤防破堤、浸水一丈四尺

荒川は各地で堤防を越え、なすすべもない状態でした。午後9時半には岩淵町付近の荒川が決壊し、北豊島郡の各町が「一丈四尺（約4.242m）」の浸水となり、水面から家々の屋根が出ているだけになりました。



100年をさかのぼれ

荒川の下流部が人間が掘り上げたものだと思ったら、人は驚くでしょう。そのきっかけとなった大洪水が起こったのは明治43年(1910)でした。今では、お年寄りが言うように、水害の跡は影も形もないように思えます。しかし、よく見ると決壊場所や改修場所が100年をさかのぼって教えてくれます。ここは水が暴れまくった場所だった。昔の荒川はここで天狗の鼻のように蛇行していた。その鼻先を削ったのが放水路だった、などなど…。そんな物語をたどる旅をお楽しみください。



① 新加平橋から嘉兵衛新田(西加平)と綾瀬川右岸上流を望む

⑩ 嘉兵衛新田・綾瀬川決壊場所(西加平)



千住新橋あたりの風景



① 水塚のある家(土を盛り、蔵を高くして浸水に備えた)

① 水塚のある家

新芝川



⑧ 大川氷川神社・紙すきの碑

⑧ 大川氷川神社・紙すきの碑

荒川(北区志茂以降は放水路になった)

⑥ 元宿耕地跡

千住新橋

西新井橋

⑦ 元宿神社・感旧碑

足立区

墨堤通り

天狗の鼻

④ (昔の荒川の河道)

隅田川(昔の荒川)

川口市

② 川口決壊場所

昔の荒川の河道

志茂

赤羽駅

赤羽駅

新河岸川(昔の荒川)

北区

浮間公園

浮間舟渡駅

埼京線

葛蒲川



⑦ 元宿神社



⑤ お竹の渡し越水場所付近



感旧碑



お竹の渡しの碑



墨堤通り(昔の堤防)に上がる階段

北加平町



⑨ 名倉医院

加平



⑫ 綾瀬川が隅田川へそそぐ綾瀬橋。
この下から決壊した



⑬ 移転した浄光寺
(木下川薬師)



⑬ 浄光寺(木下川薬師)



南北に走る天神川(横十間川)



⑭ 錦糸町駅南口にある伊藤左千夫
歌碑。ここに家と牧場があった。
(当時は本所区茅場町)

東京湾

100年前の洪水跡、追いかけてよう

ウェストエリア

①水塚のある家

埼京線の^{うきまふなど}浮間舟渡駅を降りると浮間公園があります。荒川の旧流路を生かした公園です。そこから埼京線に沿って東へ6分ほど歩くと左手に水塚(土を盛って浸水に備えた)のある家が見えます。水塚は元禄時代、蔵は幕末にできたものだそうです。なお、個人のお宅ですから内部見学はできません。



②川口越水場所 海から22km付近左岸

かつての埼玉県北足立郡川口町、今のJR高崎線橋梁の上流左岸側（海に向かって左側）あたりです。ここから越水し、あつと言う間に数km²の田畑を泥の海にして南足立郡の江北村、西新井村を経て北千住へと流れていったといひます。

③赤水門・青水門 海から21km付近右岸

南北線の赤羽岩淵駅から歩いて10分ほど。荒川の濁流を隅田川に流入させないようつくられたもので、かつては赤水門、今は青水門がその役割を担っています。2つの水門と緑の堤防との風景は、陸から見ても船から見ても鮮やかです。

④天狗の鼻 海から17.5km付近、川の中

天狗の鼻のように蛇行した箇所、旧荒川にありました。五色桜大橋の上流あたりです。放水路建設により「鼻」が削られ、現在では北区の区界として地図のみに残っています。

北千佳コース

⑤千住越水場所・お竹の渡し跡

JR北千住駅西口から西へまっすぐ、国道4号と墨堤通りを越えて歩くと、桜木町公園の入り口にお竹の渡し跡の碑が見つかります。千住と対岸の尾久を結んでいた渡しです。近くにはお竹茶屋という茶屋もありました。明治43年(1910)の洪水ではここから越水し、北千住の町は水没しました。

⑥元宿耕地跡

桜木町公園を出て墨堤通りを北へ歩きます。9段ほど下がりて並行しているのが鎌倉古道です。西新井橋の下流側には、千住で最古の歴史を誇る元宿耕地がありました。武田家重臣だった因幡守 源 貞宗の子・信義が天正元年(1573)に開墾した土地です。

⑦元宿神社・感旧碑

源信義の子孫で、元宿の「首領」を務めていたのが鈴木興吉氏です。大正5年(1916)、放水路建設で一族とともに元宿を去るにあたっ



⑧大川氷川神社・紙すきの碑

⑨名倉医院

⑩千住絵馬屋吉田家・地紙問屋横山家

名倉医院から旧街道を南へ。宿場町通りに入ると、右手に千住絵馬屋・吉田家が、その向かいには問屋場（宿場で運送を担った）の様式を残す横山家があります。横山家は、地紙（リサイクルペーパー）問屋でした。どちらも往時を忍びせる古い建築が特徴です。



イーストエリア

⑪嘉平衛新田・綾瀬川決壊場所

千代田線の北綾瀬駅から西へ歩いて7分ほどで新加平橋に至ります。橋を渡って上流右岸(海に向かって右)に行くと嘉兵衛新田(今は西加平)です。伊藤嘉兵衛が江戸の初めに開墾した土地です。ここで綾瀬川が決壊し、千住方面へ流れたそうです。

⑫綾瀬橋決壊場所(隅田川)

東武伊勢崎線・堀切駅で降り、土手に上ると荒川が見えます。荒川とは反対側にある高架橋で線路を越えて、旧綾瀬川のカミソリ堤防沿いに西に7分ほど歩きますと、旧綾瀬川が隅田川へ流れ込む場所に綾瀬橋が架かっています。この橋の下左岸(海に向かって左側)が決壊し、濁流が吾郷村(現在の墨田区北東部)へ渦を巻きながら流れ込みました。



⑬移転した浄光寺(木下川薬師)

京成線・四つ木駅を降りて、首都高速の高架下を荒川河口方向に15分ほど歩くと木下川葉師きねわくしに着きます。徳川家祈願所として知られた青龍山薬王院浄光寺です。貞観2年(860)創建という由緒ある寺は、大正8年(1919)、放水路建設のため、中川の廢川埋立地に移転しました。

⑭水没した伊藤左千夫の牧場跡

JR 錦糸町駅の南口を出るとすぐ、半蔵門線
 入り口そばに『野菊の墓』で知られる伊藤左千
 夫いとうさちうの歌碑があります。伊藤は、ここに家と牧
 場を持ち、牛乳を販売していました。明治43
 年の洪水のときは、天神川（横十間川）などが
 溢れたため、子ども9人、牛20頭を連れて両国
 の知り合いのもとへ避難しました。

表紙の写真について

この冊子の表紙写真は、明治43年(1910)8月に起きた大洪水時のもので、「北千住の惨状」とタイトルがつけられています。

複数の新聞報道によれば、12日には北千住は湖のようになり、駅も機能せず電車も止まったと報道されています。冊子の本文で紹介している名倉医院、吉田家、横山家は北千住駅の近くですから、この写真とほぼ同ような浸水被害を受けていたと考えられます。



お問い合わせ

国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所 調査課

〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1

電話：03-3902-2311（代表）

<http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/>